

2021年10月5日  
凸版印刷株式会社

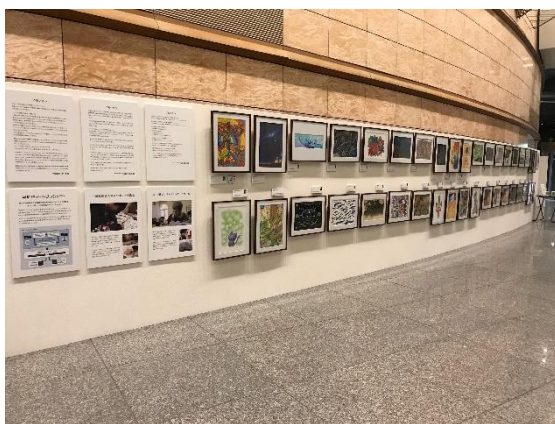
## 凸版印刷、「可能性アートプロジェクト展 2021」をリアル開催

「無限の可能性、才能」をテーマとした障がい者アート作品と

ARコンテンツや商品化事例などのアート作品を付加価値化した実例を展示

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:鷹 秀晴、以下 凸版印刷)は、バーチャル空間上に構築したトッパン小石川本社ビル(所在地:東京都文京区)を展示会場とした障がい者アート展示会「可能性アートプロジェクト展 2021」を、2021年3月29日(月)よりオンライン開催しています。

このたび、新型コロナウイルス感染拡大をうけて延期していたリアル展示での「可能性アートプロジェクト展 2021」を、2021年10月5日(火)から12月19日(日)まで、トッパン小石川本社ビル 1F エントランスで開催します。



昨年度実施した「可能性アートプロジェクト展 2020」の展示会場の様子

© TOPPAN INC.

「可能性アートプロジェクト(※1)展 2021」は、一般社団法人障がい者アート協会(本部:埼玉県入間市、代表理事:熊本 豊敏、以下 障がい者アート協会)と共同で企画した「可能性アートプロジェクト 2020」から選定された、「無限の可能性・才能」をテーマとした障がい者アート作品 30 点を新たな作品「プリマグラフィー」(※2)として制作、額装した上で展示します。

本展示会では、「プリマグラフィー」を鑑賞できるだけでなく、作品「アフリカラータル」、「夢の世界から来たねこ」、「山より出づる鳥の島」にスマートフォンをかざすと、作品が画面上で動き出す AR コンテンツをお楽しみいただけます。また、「プリマグラフィー」の展示のほか、障がい者アート作品がすでに商品化されている「可能性アートカレンダー」や「可能性アートカートカン」も展示します。

凸版印刷は今後も、「可能性アートプロジェクト」の目的である社会的課題解決と経済的事業活動が両立するビジネスモデルを構築することで、障がいをもつアーティストの自立支援の拡充と、そのプロセスを通じた次世代リーダーの育成を推進していきます。

